

■ 大学院英作文 第1回 答案提出フォーム ■

会員の方は、項目名の背景色がグレーになっている部分に入力してください。

会員番号	CA- 0000 - 0019	氏名	増進 太郎
解答所要時間	60 分	受験日	20XX年 9 月 10 日
志望大学院・研究科・ 専攻など	〇〇大学大学院 工学研究科 情報工学専攻		
感想欄 * 課題に取り組んだ際の感想、手応えなどのコメントがあれば記入してください。			
いよいよ英作文の学習に入りました。英作文は本当に苦手ですが、研究が忙しく時間もないので焦っています。添削よろしくお願いいたします。			

添削者名	満点 花子
ご挨拶	こんにちは、増進さん。忙しい研究生活の中、第1回目の提出お疲れ様でした。手ごたえはいかがでしたか？

解答欄 ※問題文の下に解答をお書きください。

(1) この e ラーニングシステムを使うと、科学・技術英語の書く力と話す力がアップします。

This e-learning system will improve your writing and speaking ability in Technical English.
 非常によく書けています。this e-learning system を主語とした簡潔な文になっていますね。
 ability は単数名詞ですので、冠詞か所有格をつけて限定しましょう。

(2) 第1回目の試験では、このステンレス・スチール容器が 100 kg/cm²の圧力に耐えることがわかった。

From the first(first)(ス) experiment, we found that this stinless-steel(stainless-steel)(ス) container withstood(withstands)(時) pressure of 100 kg/cm².

スペルミスが目立ちますので注意しましょう。

間違いではありませんが、名詞節を導く that は、論文などかたい内容の場合は省略しない方がよいでしょう。

withstand が過去形になっていますが、「ステンレス・スチール容器が 100kg/cm²の圧力に耐えること」は不変の真理ですので、時制の一致を受けず、現在形のままで表記します。こういった用法は論文などにおいても非常によく使われますので、注意してください。

自習用問題 No.3 でも触れられているように、日本語で「第1回目の試験では～」などという場合は、無生物主語で書くテクニックを覚えましょう。その方が英文がぐっとシンプルになります。この場合は、the first experiment を主語とし、

(以下略)